

南九州短期大学

『留学コース通信』

平成 28 年 9 月 21 日
第 11 号
文責：水島孝司
(留学コースアドバイザー)
学校電話 0985-83-2100

こんにちは。この通信は、海外留学や異文化理解・交流に興味のある高校生の皆さんに、南九州短期大学の留学コースについてより良く知ってもらいたいとの願いから発行するものです。第 11 号では、エドモンズ・コミュニティカレッジ(EdCC)での単位認定留学に参加した学生たちの現地での成長につながった言葉などを紹介します。

Q: EdCC の先生から言われたことで、印象に残っていることを教えてください。

A: 平成 27 年度の単位認定留学に参加した金丸未夢さんに答えてもらいます。

私が留学中に先生に言われて一番印象に残っているのは、「日本人は間違いを気にしすぎて発言が出来なくなっている」ということです。これは **Speaking & Listening** の先生の言葉です。私が留学して最初の頃は、自分の未熟な英語が通じるのかという不安がありました。また、文法・発音などに対する自信のなさから、声が小さくなってしまった時もありました。さらに、自分の頭の中でそれなりに答えが出ていても正解かどうか分からず、自分から積極的に発言するのをためらっていた時もありました。

そんな中、アメリカの先生が教えてくれたのは「まずは発言する」ことでした。自分の頭の中で考えているだけではそれが正しいのかも分からないし、仮に間違いだとしても言わなければ先生はそれを正すこともできません。「まずは間違えることから始めてみよ

写真

- p.1 左 Grammar の先生（中央）、クラスメートと金丸さん（左）。セントパトリックス・デーに撮影。
- p.1 右 シアトルのダウンタウン（金丸さん撮影）
- p.2 左 広川さんとホストファミリー
- p.2 右 成績優秀者表彰を受けた広川さん（左）と湯前さん



う (Let's start by making a mistake.)」と先生が言われた時に大きな衝撃を受けました。それからは間違いを恐れることなく積極的に発言することを心がけ、その結果しっかりと授業を理解することが出来ました。先生の言葉は、自分の考えを「発言」という行動に移すことが英語を学ぶ上でいかに重要なことであるかに気づく良いきっかけになりました。

Q: ホストファミリーから言われたことで、印象に残っていることを教えてください。

A: 平成 27 年度の単位認定留学に参加した広川千紘さんに答えてもらいます。

私がホストファミリーから言われたことで印象に残っているのは、「アメリカ人ははっきりとした返事や表現を好む」ということです。留学当初はホストファミリーに対してあまり自分の意見がはっきり言えず、曖昧な表現を繰り返していました。例えば、出された夕食に嫌いな食材が入っていても「おいしい」と言って毎日食べていました。遠慮することが多く、はっきり自分の意見が言えなくて毎日苦戦していました。

そんなある日、私の様子に気づいたホストマザーが、「好きじゃないものを好きだと言わないでいいのよ。本心を教えてね (Don't sugarcoat it. Please tell me the truth.)」と仰ってくれました。アメリカ人ははっきりとした返事や表現を好むこと、変に嘘をついたり、遠慮をしてその場をしのいでいると、かえって関係が悪くなったりする場面があることを教えてくれました。それから、私とホストファミリーの間では“Don't sugarcoat it.”が合言葉のようになり、はっきり自分の意見が言えない私をいつも冗談交じりで助けてくれました。その結果、私とホストファミリーの仲は一層深まり、本当の家族のようになりました。そして、自分の意見を言うことに抵抗がなくなった私は、学校の授業でも発言できるようになり、そのおかげで英語力も大きく伸びたと思います。

ホストファミリーから教わった「アメリカ人ははっきりとした返事や表現を好む」こと、そして“Don't sugarcoat it.”という言葉は、自分の意見がはっきり言えない私の背中を押してくれる、温かい支えになりました。また、それは英語学習に役立っただけでなく、アメリカの文化を肌で感じる機会にもなりました。

★「平成 27 年度単位認定留学」成績優秀者表彰★

平成 27 年度の単位認定留学（平成 27 年 9 月～平成 28 年 3 月）に参加した学生のうち、広川千紘さんと湯前萌花さんが表彰されました。二人には土田博学長より、手書きの立派な賞状と奨励金が支給されました。Congratulations!

